

かずさの博物誌

カワウ

～淡水池で集団営巣～

文・写真／成田篤彦

2014.1.20



▲カワウの集団営巣＝2013年4月14日 木更津市

今月の冬晴れの日、袖ヶ浦公園の大池に行った。池の周りの道路では熟年や若者の夫婦が話をしながら散歩していた。ジョキングする方もいた。

ヨシが生える岸辺で一羽のカワウが真剣な様子で首をのぼし水中を見つめている。首の回りに白い毛が生えていた。すでに、繁殖期に入っている証拠である。カワウは背だけを水面に出し、首を水中につっこみ岸辺に約一メートルも近づいた。

何かを岸辺の石積み追い立てているに違いないと思った。水上に頭を上げた時に、大きな平たい魚をくわえていた。「外来魚のブルーギルだ」と思った。くわえ直して、ちよつと苦しうだが、ぐくりと呑み込んだ。胸のあたりが膨らんだ。よくこんなに大きな魚を呑みこめるものだと感じる。その後、体が沈みそうになりながら、沖へ泳いで行った。この公園では二、三十羽のカワウが池の周辺の枯れた樹木で休息する姿をよく見かける。



▲ブルーギルを捕えたカワウ
＝2014年1月12日 袖ヶ浦市



▲ブルーギルを呑み込むカワウ
＝2014年1月12日 袖ヶ浦市

小櫃川の下流域でも漁をしている姿や岸辺で休息する姿を見かける。かつて、小櫃川でウナギを呑み込むのを見たことがあるが、ウナギがまがりくねってなかなか呑み込めないでいた。長いのは苦手らしい。

上総では盤洲で繁殖している。繁殖地は人工の淡水池の土手である。そこに生えるエノキの木に集団で巣をつくる。その周りをハマダイコンの淡いピンクの花が一面におおう。その光景は豪華で見ごたえのある絵画のようである。

この場所に巣をつくりだしたのは一九九五年からで、今では約二五〇〇〇以上の巣がある。近くの海辺には数百のカワウが羽を休める姿が見られる。

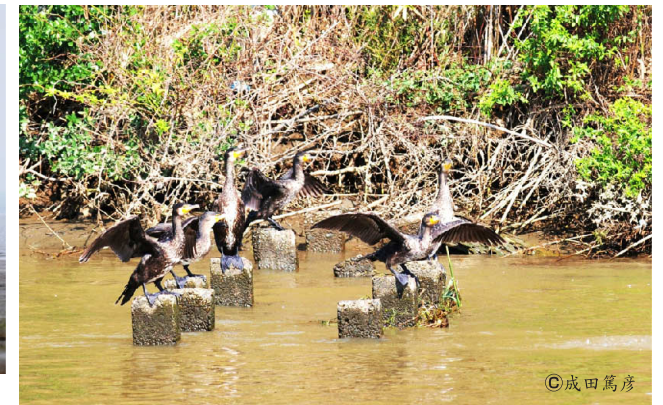
カワウは一時数が減少したが、近年は増加している。その一つの原因に外来魚が増えたことにあると言われる。上総では河川の上流域にはあまりないが、下流域、大きな堰などにはたいい魚を捕りにきている。

また、「カワウが海で魚を捕るので困っている」と言う漁師の方もいる。

現在、カワウは県指定の一般保護生物になっているが、カワウと人々の生活との共存はなかなか難しい時代になってしまった。



▲盤洲で羽を休めるカワウの群れ＝2011年1月24日 木更津市



▲小櫃川川岸で休むカワウの群れ＝2009年9月29日 木更津市

memo

カワウ

カツオドリ目ウ科

県指定一般保護生物(全長約八十二cm。ユーラシア大陸、北米、アフリカ、オーストラリアに広く分布。産卵期は十一月～六月。上総には一年中生息する。魚食。千葉市大蔵寺のカワウ集団営巣地は一九三五～一九七二年まで千葉県指定天然記念物であった。

参考文献

千葉県の保護上重要な野生生物 2
011年 千葉県